

平成28年度 第3回 学校協議会報告

【日時】 平成29年2月17日（金）14時～16時 セミナーハウス3階研修室

【出席者】

学校協議会委員：岩井 英雅（元府立学校准校長）大原 武史（寝屋川市立第一中学校長）
土 静江（北水会）神戸 尚史（校医、産業医） 水野 洋子（PTA定時制委員会副委員長）

准 校 長：大森 孝志

事 務 局：伊藤 牧子（教頭）北村 陽子（首席・養護教諭）安田 晃（教務主任）
沼田 慎也（生徒指導主事）小澤 靖典（進路指導主事）原川 亜理紗（保健主事）
林 雄大（4年学年主任）神原 優希（3年学年主任）庄司 樹生（2年学年主任）
亥野 良祐（1年学年主任）

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 准校長挨拶
- 4 協議

【教務部】

勉強がわかる喜びを伝える

- 授業アンケート⇒全体的に授業に対する評価は上がってきている。
 - ・准校長の指導の下、全教員が学校全体でよい授業をしなければならないという高い意識を持って実践した結果である。
 - ・学校教育自己診断でも「補助教材の工夫」や「授業はわかりやすい」の肯定的意見が大幅に伸びている。
- ICT機器の活用の増加・・・技術的な研修、動画・写真など視覚情報の提供、ICT機器の新規購入。
- 研究授業・・・アクティブラーニング型授業を実施した。定時制ではさらに研究が必要である。
- 年2回授業見学週間の実施

提言1

- ICT機器を活用した授業をさらに充実させていく
 - ・データの共有化とさらに練り上げていく努力・工夫をする
- 授業態度も良い方向に変化している。日頃から生徒との信頼関係を築く努力をすること。
- 授業の質をあげることが大切だ。習っていることが社会で役立つと知れば学校へ来るようになる。

【生徒指導部】

人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

- 授業アンケート⇒携帯指導のよい効果があり、落ち着いて学習できるようになっている
- あいさつ運動⇒継続して指導を行うことにより、あいさつができる生徒が昨年度よりさらに10%増加した。さらに積極的に声かけをしていきたい。
- 学校行事やボランティア清掃への参加率も上昇している。PTA定時制委員の方の参加もありがたい。
- 職場だけではなく、学校もあいさつをする場所であるという、「あいさつへの心の壁」を取り払うことも大切である。

提言 2

- 学校生活上、してはいけないことに対しては、毅然と注意する指導を積極的にしてもらいたい

【進路保健部】

夢や志を抱く喜びを伝える

- 進路講演会（外部講師）では、「人材育成」がファイナンシャルプランナーによる「ライフプラン」、公認会計士による「労働問題への対処方法と給与明細の見方」について学んだ。
- 奨学金説明会への参加率が低く、次年度は周知方法を改善したい。
- 進路決定率 49.2% 進学 11 名 就職 19 名
- 全教職員で 71 社の企業訪問ができ、指定校求人も増加した。
- 在学中にアルバイトをして、社会性を身につけてほしい。
- 就職試験の一般教養に対する力が弱いので対策が必要である。
- コミュニケーション能力を身につけ、面接場面で自分の考えを話せるようにならなければならない。

提言 3

- 就職率を上げるために、さまざまな履歴書の事例について学習する機会を作るなど、履歴書の書き方指導を工夫すること。

【首席】

校内組織の活性化と人材育成

- 様々な課題を抱えている生徒や中途退学する生徒への支援を検討する事業として「高校生活支援プロジェクト」を立ち上げた。中退防止コーディネーターの立案をもとに、校務検討委員会で検討を重ね、組織的に活動するために職員会議等で全教職員の合意を得てきた。
- 上記プロジェクトの中で、今年度は主に「低学力生徒への支援」「遅刻時間の見直し」「進学に対応したゼロ時限目授業」について検討し、平成 29 年度からの実施に向けて準備を進めている。
- 緊急災害対応時における教職員組織の明確化については地震防災マニュアルが完成し、全教職員に周知した。
- 人材育成については、上記プロジェクトの一環として、中退防止コーディネーターが企画した体系的な教職員研修が 5 回実施された（外部講師 4 回、中退防止コーディネーター 1 回）

全体を通して

- 生徒が自ら何かを計画して取り組むと変わる。授業も同じである。生徒自信が役立つと思う授業展開を努力してほしい。
- 学校教育自己診断の評価結果を受けて、各分掌等での分析・検討が非常によくできている。これらに基づいてさらに前進してほしい。